ISSN 0386-4790

国文学研究資料館報

第36号

平成3年3月

パリ訪書行

長谷川　強

平成二年度の科学研究費補助金（国際学術研究）を受けて、二年九月二十四日成田発、三十日帰着の日程でパリ所在の文献資料の予備調査を行なった。当館の小峯和明助教授と私が赴き、現地で欧米各地資料調査のため滞在の実践女子大学文学部の佐藤悟助教授の御協力を得た。現地時間の二十四日夕にド・ゴール空港に着いた時にはひどい俄雨に見舞われたが、その後は天候に恵まれ、現地の方々の多大の御配慮の下に順調に資料を閲覧、しかもその資料の殆んどは近世関係の珍本とあって、私には至福の日日であった。

パリ国立図書館では同館写本部の小杉恵子氏が親切に御世話下さった。写本部では、キリシタン版の『落葉集』『ぎやどぺかどる』の他、既に紹介されている『すゞりわり』他の奈良絵本が所蔵されており、先年当館に客員としておいでのピジョー教授にも久しぶりでお目にかかり、右の貴重な諸書および若干の版本に眼福を得た。

版画部では三日間御世話になった。同部の方に多大の御好意をいただき有難い事であった。所蔵書全体への大体の見通しを得たいがために、特に御配慮をいただき、また限られた時間内に許される限度一杯の閲覧請求をして出来るだけ多くの書物に接するように努め、御面倒をおかけした事である。

今回私たちの閲覧した書物は、デュレーとルポーディの旧コレクションである。前者には印刷単行の目録があり、また両者を通したカード目録も備えられている。前者のうち印刷目録初の七十五点については、古典文庫第四六八冊『好色ひともと薄』末に吉田幸一氏が印刷目録の解説をもとに紹介しておられ、演劇資料については鳥越文蔵氏の「ヨーロッパの日本近世演劇資料」（演劇学六号）および『図書館蔵古浄瑠璃集』（校倉書房）に書目・解題・翻刻がある。また絵本については松平進氏の『師宣祐信絵本書誌』（青裳堂書店）に触れられている。今回は江戸後期の絵本閲覧に及ぶ時間がなかったので後の機会にゆずり、吉田氏の御紹介をもとに若干の心覚えをしるし、また諸氏の触れておられないルポーディのコレクションのうちの幾らかの書物を紹介する事にする（番号は吉田氏のものとの対照の便のために付した）。

1『仏説十王経』は電覧の遺漏はあろうが天正十年刊の根拠を確認していない。3『伊勢物語』は覆刻本、5『百人一句』は京の谷口三余版、7『平治物語』二冊は、巻二・三の二冊、丹緑本、8『たかたち』以下13・14・15・16・17・18・19・20・31・49・52・56・57・58・59・60・61・62・63・65・66・67・68(一)―(四)・69・70・71・72・73および『野老役者』については鳥越氏前記論考を参照されたい。ただし、49『曽我』第一冊の内題は「ゆいせき諍」、70『近江国滋賀物語』の内題は「祝言記」であろう。また73『妹背山』は「おみわ吉田文五郎／もとめ吉田文蔵」とあり、丸小刊の浄瑠璃絵尽と思う。わが国に伝存の確められぬ絵入細字本が多く、専門の方には唾涎ものであろう。11『絵入女鏡躾方』は『女鏡秘伝書』、24『卜養狂歌集』は半紙本上下合一冊で末尾欠、25は『吉原恋の道引』であり、この書以下26・27・28・29・33・34・36・

目次

パリ訪書行……長谷川　強……1
第十四回国際日本文学研究集会会議録……2
共同研究報告……3
国文学論文目録データベース試行についてのお知らせ……5
新収資料紹介㉛……6
新収和古書抄……7
彙報……8
利用者へのお知らせ……9
平成三年度春季学会開催一覧……10

37・40・43・44は松平氏著書を参照されたい。39『伊勢物語』は『伊勢物語頭書抄』、41『若衆』は版心の「和歌集」を題名に採り「Waka-shou」としたもの、末に「文明十六年霜月中旬／宗祇在判」とあり、漆山氏『絵本年表』一に延宝七年の項に掲げる『自讃歌註』と思われるが、版元は漆山氏のいう須原屋でなく松会である。42『百人一首像讃抄』は「元禄五歳申初秋吉旦　明林軒開板」の刊記、46『和国百女』は松平氏のいわれる中・下巻序を除く後印本、47・48の『姿絵百人一首』はともに木下甚右衛門の刊本であるが、前者は住所が小伝馬三丁目、後者は大伝馬弐丁目になっており、後者の方が刷がよい。50『諸国安見回文の絵図』は小本一冊、末尾に欠丁がある。各丁下半が絵図になっているが、「宝永四亥六月」云々はない。51『係詞歌仙金玉抄』は「洛陽散人山雲子」の序、「七月日／松会開刊」の刊記。

ルポーディコレクションについては、殊に小説類など今までに紹介されていない。一部デュレー本をも含めて目についた書目をあげると、仮名草子では、犬つれ〴〵・大坂物語（刊記「慶安甲下夏」）・同（刊記なし）・糺物語・曽呂利はなし・為愚癡物語・狂歌咄・狗張子・同（寛政版）など、西鶴本では、色里三所世帯が目下天下の孤本ではなかろうか。上中下四冊（下を二冊に分ける）、巻末に貞享五年六月の年記があって版元名はない。刷はよいが挿絵一部に後人の墨抹がある。名古屋の風月堂の貸本である。他に日本永代蔵（三都版）・同（西沢版）・好色五人女（森田版）・本朝桜陰比事（万屋・柏屋刊本）・西鶴置土産・俗つれ〴〵、以後の浮世草子では、古典文庫に入った宮戸川物語・好色ひともと薄、吉田氏の注目された下谷桂おとこの他、御前義経記・元禄曽我物語（東海道敵討）・傾城禁短気（文政十二年刊本）・近士武道三国志・商人職人懐日記・忠義太平記・本朝会稽山・勧進能舞台桜・倭織錦船幕・柿本人麿誕生記・商人軍配記・世間旦那気質など、他に君臣図像（整版本）・紙鳶・正月揃・傾国乱髪・役者職敵（三都揃）・草の種・諸鞚奥州黒・倭花小野五文字、それに役者せりふ集など。御前義経記・元禄曽我・正月揃など原装初印の美本である。乱髪は影印紹介があり、奥州黒も稀書複製会本があるが、珍本というべく、小野五文字も珍であろう。

吉田氏の目録七十五部はデュレー本の元禄期以前に限定したとお書きであるが、目録カードに付けられた整理番号は、現状が合綴して一冊であれば一番号、原態五冊現状五冊なら五連続番号が与えられている。従ってカードの番号から正確な部数を知る事は不可能ながら、デュレー・ルポーディ合せて四千程の番号が付いている。

以上は時間の関係でカードのみによるものもあり、原本を閲覧し得たものも正に電覧、少時の目睹に過ぎず、今後の改めての精査を俟つものであるが、それぞれの専門の方には唾涎の資料が多い事と思う。なお平成三年度以降も調査を希望している。

一般の閲覧には一日十二部までという制限のある事は前述したが、その他閲覧証は期限三日まではその場で発行してもらえるが、それ以上の日数の時は有料で写真を必要とする。注意されたい。

あと一日ギメ東洋美術館図書館

（六ページへ）

国際日本文学研究集会会議録（第14回）

あいさつ　小山　弘志

研究発表

「桃太郎」における鬼退治の意味　呉　讃旭

説経節「小栗」における中世から近世へ　ニコラ・リスクティン

朝鮮通信使と歌舞伎　朴　贊基

虫籠をめぐる詩歌史管見　鈴木　健一

漢詩文：広大な精神文化的空間——明治初期　中、日文人による漢詩応酬の一例——　葉　英樹

森鷗外の「高瀬舟」と外国文学　張　小玲

韓国モダニストの日本文学受容——李箱詩と横光利一をめぐって——　佐野　正人

島尾敏雄『日の移ろい』試論　フィリップ・ゲイブリエル

水上文学と中国　柯　森耀

公開講演

平家物語の文章の研究　カレル・フィアラ

王朝の楽人達——音楽史の一断面——　福島　和夫

記　録

日程および研究集会の経過

参加者名簿

国際日本文学研究集会委員会名簿

――共同研究報告――

日本文学の特質

――西行の研究――

小峯和明

今年度の共同研究は、当館の客員教授として招聘したペンシルヴェニア大学教授のウイリアム・ラフルーア教授を中心に、「西行」をテーマに取りあげた。

研究会のメンバーは館外から東京女子大学教授の大隅和雄氏、東京大学教授の久保田淳氏、東京大学教授の坂部恵氏、元東洋大学教授の高木きよ子氏、秋草学園短期大学副学長の目崎徳衛氏、大正大学教授の山田昭全氏の各氏、館内から小山弘志館長、松野陽一教授、山崎誠助教授、佐伯真一助教授、佐々木孝浩助手、小峯和明が参加。四月から八月まで毎月一回、館外の方々の研究発表を主体に以下のごとく行った。

四月・ラフルーア教授の西行歌の翻訳をめぐる基調報告

五月・山田昭全氏「富士の煙と鴫たつ沢と」

六月・高木きよ子氏「西行の宗教意識―桜の歌を中心に―」

七月・大隅和雄氏「遁世門の祖師としての西行像」

八月・坂部恵氏「西行に関する若干のコメント」

久保田淳氏「西行のことばについての断章」

歌人としての西行や宗教者としての西行の検証をはじめ、西行の和歌の表現に関する特質など、さまざまに熱のこもった討議が交わされた。ことに西行の求道の姿勢や悟りの問題、あるいは西行の歌の英訳をめぐって議論が盛り上がった。古典語の世界だけではみえない、西洋の美意識や宗教意識とのかさなりやずれにまで視野が及び、比較文化研究から西行が照射された刺激的な研究会であった。

宗教の問題もからんで、なかなか全体像がとらえにくい西行という存在やその表現の一端に迫りえた点で、満足すべき成果が得られたといえる。学際的な研究の場の意義をあらためて感じさせられた。

また、この会に合わせ、五月にラフルーア氏と山田昭全氏を講師として、西行をテーマに公開講演会が開かれた。

松宇文庫の調査研究

竹下義人

本共同研究は、平成元年度からの継続である。その目的は、松宇文庫（昭和六〇・六一年度に調査・収集済み）の所蔵にかかる俳書の目録を作成・公刊し、広く一般の利用に供することにある。具体的な研究内容については、すでに『館報』第34号（平2・3）に掲載の「共同研究報告」や『平成元年度共同研究報告書』（平2・6）などに記したので、詳細はそれらの報告書に譲り、省略する。

今年度の共同研究が、昨年度と異なる点は、構成メンバーが、二一名から一〇名に縮小変更されたことのみである。これは、研究会活動の一層の能率化をはかるための措置であったが、メンバーが分担して取り組む調査カードの原稿化、という基本的な作業は、今年度も引き続き行なう必要があった。したがって、実作業の方は、昨年度のメンバーとも連絡をとりあいながら進めていった。

研究会の方は二回開催され、各メンバーから寄せられた原稿執筆に関わる諸問題について検討する場として機能し、一応の成果をあげることができた。

つぎに原稿化の進捗状況について簡単に報告しておきたい。まず、昭和六〇年度調査分については、すでに昨年度中に完了。ついで次年度調査分については、一部なおも執筆中で、当初の計画より若干遅れて出来の予定である。この遅延は、主に当館での原文との照合作業に際し、当該年度分の紙焼写真が利用できなかったことに因るもので、マイクロフィルムによる閲覧は、予想以上に作業効率を低下させる原因となった。ともあれ、そうした執筆上の不便な点も、平成三年度早々には解消される見通しが立っている。残された原稿については、早急にとりかかり、年度内には点検・整理を済ませ、将来の入稿に備える予定である。

出版社の選定や刊行の時期などについては、二、三の私案が提出されてはいるが、まだ具体化するにはいたっていない。それらについては、原稿の進捗状況を考慮しつつ、今後、有志間で検討することになった。

南北朝期古今集注釈書の研究

高梨素子

天理本『古今集耕雲聞書』を中心として、南北朝期古今集注釈書の、同注釈史上における位置を探り、併せて耕雲歌学の背景を考究するのが本研究の目的である。具体的には、まず本文の翻刻を行い、内容を他の古今集注釈資料と対照することが、中心となった。対照資料としては、作者が判明しているか、その注釈としての位置がすでに研究され明瞭となっている資料で、耕雲と同時代のものまでを取り上げた。教長注、顕昭注、顕注密勘、僻案抄、為家序抄、為家抄（天理本）、為相注（広貞注）、三秘抄、明疑抄、古今和歌集序聞書三流抄、伝頓阿序注、毘沙門堂本注、六巻抄、浄弁注、伝兼好注、親房注、いわゆる冬良注である。これを研究員が各自何本かずつ分担して調査し、各回の担当レポーターがまとめる方法をとった。またその過程で気付いた問題点について報告し、皆で討議した。底本との類似関係が大きかったのは、仮名序部分では三流抄と毘沙門堂本で、歌集部分では顕注密勘と毘沙門堂本であった。仮名序で「口伝云」とする場合の口伝はほぼ三流抄を指すものと思われる。また作者の出自環境から、影響が想定される親房注は親房独自の思想性に関わる根幹の部分では、取り入れているとは言い難いが、説話的部分での類似はあり、同注を見ていたことは考えられる。本書は大まかに二条家系歌学に位置付けられてきたが、冷泉家流伊勢物語抄との関連もあると思われ、また耕雲の源氏物語注釈との関連など、問題点として浮かんだ箇所を、今後さらに緻密に考究して、本書の性格及び位置付けを一層鮮明化する必要がある。しかしながら今回の主作業となった他注との対照表は対照者により判断の揺れを生じている危険性を含みながらも、他注間の関係にも示唆を与え、それなりの意義を持つものと思う。本書は、注と、用語索引、諸注対照表を付して、活字出版する予定である。なお、本研究に従事したのは、新井栄蔵、小高道子、久保木寿子、末澤明子、高梨素子、武井和人、深津睦夫、吉川栄治である。

江戸初期以前の演能記録の総合的研究

樹下文隆

能・狂言の上演記録（演能記録）は、能楽研究の基礎資料である。作品の初出や変遷を知りうるだけでなく、時には演出法の分かる記録もある。また、役者の活動の時期や内容を窺い知る根本資料といえる。しかし、記録の少ない室町期の分を除けば、演能記録の大部分は未だ集成されていない。本共同研究は、資料的価値の高い江戸初期以前の記録を選び、コンピュータを利用しての資料処理の方法を視野に入れ、演能記録データベース作成の基礎を築こうとした。

まず、法政大学能楽研究所般若窟文庫蔵『江戸初期能組控』をサンプルに、昭和55～59年度に当館の共同研究「連歌資料のコンピュータ処理の研究」によって生まれた「連歌作品目録データベース作成システム」を用い、実際に作業を行なった上で、種々の問題点を討議した。原本尊重を原則に、かつデータとして役立つように項目等に検討を加え、試行錯誤の後、入力マニュアルを作成した。次に、宮城県立図書館伊達文庫蔵『古之御能組』を入力し、それによって新たに生じた問題について討議を重ね、入力マニュアルの一応の決定に至った。データの基本構成は、一日の演能の全体像を親カードに、その個々の上演曲についてを子カードに記し、整理番号・上演年月日・能狂言等の区別・番組名・主催・客・場所・内容・曲名・シテ・ワキ・助演者・助演者注・特記事項・所収資料名・資料所蔵者名・採録者名等の18項目とした。年月日・演者名・曲名は索引を利用できる。

まだ未解決の問題も多い。たとえば、役者の名は踏襲されるのが常で将来的には諱名を付けるのが望ましいが、それはデータが集まった上で考証することとし、今回はデータ提供を第一に、注記を加えつつも索引の対象としなかった。

本共同研究は今年度で終了するが、メンバーは引き続き共同作業を続け、その成果は、個々の研究に反映されるとともに、将来的には総合的な演能データベースとして公開を目指す。

法会と唱導文学に関する学際的研究

山崎　誠

本研究は平安鎌倉時代の唱導文学を、顕密の法儀法会の実態に即して解明することを目的とする。そのため、特に法会を芸能史の立場から研究されている東京文化財研究所の佐藤道子氏を中心に、寺院文化・寺院構造を研究している方々と相互交流・相互刺激を行なっている。

研究方法は、顕密の法会に関わる個別的研究報告と、源為憲撰三宝絵下巻の解読という二部構成で行ない、随時メンバー以外の方々にも参加して戴いている。

これまで三回の研究経過は次の通りである。先ず、個別発表報告は、それぞれ専門的立場からの法会に関わる多様で刺激的な報告がなされ、学際的な研究の有効性が大に確かめられつつある。

・佐藤道子「修正会大導師作法の教化」
・永村　眞「門跡と修法」
・土谷　恵「中世初期の醍醐寺三宝院―座主方の組織と運営―」
・水尾寂芳「論義法要の意義について」
・千本英史「法華験記の優婆塞と優婆夷」
・小峯和明「江都督納言願文集の世界―白河院と法勝寺関係願文―」
・山崎　誠「遍智院僧正成賢編密宗表白集について」

また、『三宝絵』下巻輪読については、

比叡坂本勧学会
山階寺涅槃会
御斎会
長谷寺菩薩戒

をそれぞれ担当報告し、それをもとに議論検討した。

三宝絵の年中行事の記述は、従来いかなる疑いもなく平安中期の実態を反映していると考えられたが、為憲の虚構を孕む可能性も解き明かされて来ている。

研究会は猶、一回分を残しているが、発展的な計画として、顕密寺院に於ける年中行事の総合年表化などを手掛けてみたいと考えている。

国文学論文目録データベース試行についてのお知らせ

データベース室

国文学研究資料館報　第三十四号・三十五号でお知らせしましたように、当館では、国文学論文目録データベースのオンラインサービスの開始に向けての試行を実施しております。

当データベース作成とオンラインサービスの基本的な問題は、おおむね解決できて試行に踏みきりましたが、実際の公開までには、なお、解決しなければならない付帯的な問題が、データベース作成の面でも、オンライン検索の面でも、残っています。

現在、館内で検索の試行を行っており、また、他機関の協力を頂きそれらの機関からの検索の試行を行っています。その過程でも問題点が出てきており、それを一つ一つ解決してきております。

館外にモニターを依頼して検索の試行を行っています。その場合も、いろいろの問題点が出ておりますが、これらも一つ一つ解決してゆこうとしております。

又、国文学関係の学会の委員会、例会、あるいは、大会などで、この国文学論文目録データベースの利用に必要なことを御説明したりする機会を作って頂ければ、可能なかぎり当方から出向いて、御説明する努力を致す心づもりをしております。

国文学論文目録データベース作成の業務は、データベース準備室からデータベース室に移管されました。現在の見通しでは、特に問題が生じないかぎり、平成四年四月には、オンラインサービスの一般公開に踏み切れる条件を確立したいと考えております。

新収資料紹介㉛

玉吟集

新古今歌人藤原家隆の家集『玉吟集』（壬二集）は、知られている三系統の伝本共に初めに百首歌以下の定数歌を配し、次いで四季、恋、祝、旅、雑、神祇、釈教と部類歌が並ぶが、本書はその四季部類歌を独立させ配列を改編した六四五首から成る独自の歌集である。独自のねらいがあっての改編撰集で、流布本玉吟集の残欠本や単なる抄出本ではない。

本書の現状は巻子本一巻の軸装であるが、本来は四半の列帖装だったものの改装本と推定される。表紙は金茶色に銀糸で草花、卍、七宝文様を織り出した緞子表紙（二五・七センチ×二三・九センチ）で題簽は無く、見返しは布目金泥の斐紙。本文料紙は縦二五・七センチ、横一五・六センチ乃至一七・一センチの斐紙九〇紙を糊継ぎし、雲母刷斐紙で裏打してある。改装後は天地二五・七センチ、横一四〇〇・五センチに仕立られている。軸は象牙、竹の抑えに紫の組紐が付されている。料紙の一紙ずつの幅が不揃いなのは、行間を揃えるために各紙左端の墨行ぎりぎりで裁断しているからで、一紙十行書き（一首一行書き、詞書三字下り）であること、秋部に二紙一丁分と推定される脱落が現状の継目に当る部分にあること、何よりも補修前の部分に左右対称となる虫損が隣接する二紙ずつに数ヶ所にわたって認められることなどによって、列帖装本から巻子本への改装が認定できる。原本の書写年時は室町末期、改装は表紙と見返し、裏打紙の素材形状から江戸中期の初め頃と推定しておく。なお、極礼に飛鳥井雅俊筆とあるが、飛鳥井流の温雅な筆跡ではあるものの、やや下るかと思われる。印記はなく、巻軸に磨滅して判読困難ながら、「田嶋次郎左衛門」と辛うじて読みとれる記載が残る。

内容は、前記の如く、流布本玉吟集四季部の改編本である。新編国歌大観本と対校するに、二〇一六、二〇二七、二三八三～二三九六、二五八一の一七頁を欠き、代りに春部に後度百首の一三三、六百番歌合の三〇二、三一二の三首が加わっている。二三八三～二三九六の一四首は詞書を含めると丁度二〇行に当るから、一丁（二紙）分の落丁と推定され、全体としてはほとんど流布本四季部と変りないといえよう。大きく異るのは歌順と詞書の表記で、流布本よりも歌題、歌材毎にまとめようとする傾向、流布本で分載されている同一歌会歌をまとめて行く傾向が見られ、また大きな相違として、二～四首ずつ歌題を前にまとめて一行に表記（更衣、遅桜、早苗の如く）し、その後に歌のみを連続して記載するなどの特徴を見ることができる。略記されて見易い印象もあるものの、この改編によって犯すことになった誤謬もまた数多く見られる。思うに、前記の如く春部にのみ百首歌三首の混入現象の見られるのは、当初流布本巻上中の定数歌を解体して四季歌配列に挿入、構成を再編する企図がありながら、四季歌配列が徹底した題構成になっていず、歌会毎の小歌群の積み上げになっていて挿入困難となって四季部歌のみの改編に戻ったことの痕跡を示しているといえよう。家隆歌の本質を簡略化した形で鑑賞把握するための改編歌集と見做してよかろう。形態面での本文劣化は否めないが、歌本文や歌題、詠作機会についての本文も資する点は多い。編纂目的ともども検討に価いする伝本である。

（文献資料部　松野陽一）

（二ページより）

で、尾本圭子氏の御世話で日本関係書名を閲覧用のカードで検索した。絵本・絵入本が相当あるが原本閲覧の時間がなく、詳細は後日を期したい。

終りに、改めて小杉恵子氏、写本部及び版画部で御配慮いただいた方方、尾本圭子氏に深く感謝の意を表するものである。

（文献資料部長）

新収和古書抄

平成二年

扇の草子　絵巻一巻

江戸初期の制作。金襴梅紋唐草模様表紙。扇面図三十の上下に対応する和歌を散し書きした絵巻で縦十八・一糎、横三八三・二糎。六紙を継いだもので各紙（それぞれ約十八・一糎×六三・八糎）に扇面図五と対応する和歌五首を添える。用紙は上質鳥の子紙、金泥、銀泥、丹を豊富に使用した豪華本である。

玉屑帖　一冊

仏書の稀本零葉集。全四十四葉。昭和二十三年四月禿氏祐祥古稀・高雄義堅華甲を祝って龍谷大学史学会・仏教史学会有志が編んだもの。古写経・大蔵経・古刊本の後に真宗古典の零葉九葉を貼る（教行信證延書き室町後期等）。

和歌灌頂次第秘密抄　写一冊

家隆仮託の歌学書。内題「一宗次第灌頂秘密」。奥書「延宝二年甲寅六月二日、山州於山科寺書写、山本秀俊無謏軒、法名光諶自祐」。伝本は多く、三輪正胤氏により二系統に分類されるが、そのいずれにも属さない大幅な増補が目立つ。

宝物集　三巻三冊

寛文元年八月、高橋清兵衛板。小泉弘氏の分類に所謂平仮名整版三巻本系甲種本。「耕文堂」印。

宝物集　七巻七冊

元禄六年、洛城書肆梅村三郎兵衛板。小泉弘氏の分類に所謂第一種七巻本丙種。一般に言う元禄七巻本。「春翠文庫」印あり。

韻字　中本写二冊（乾・坤）

乾冊に上平、坤冊に下平の韻字と用例を集めた、いわゆる「略韻」の一つ。冒頭に諸宗についての雑記があり、仁如集堯所持本からの転写本であることが知られる。文字の配列は基本的には聚分韻略に従い、「外（聚分韻略にない字）」「祖」「氏」が累加されている。朱引き入。末尾に四言句集あり。

五字城・梅溪集　大本写合綴一冊

前者は五山聯句約四十巻を雑纂したもので、月舟・横川らの点を朱で書き入れている。ほぼすべての巻が内閣文庫本『梅花無尽蔵』に見出される。後者は七絶を主とした五山詩集。「霊兆」「江竜／紹泰主」と記名あり。

藻塩草　大本十冊

宗碩編の連歌辞書。寛文九年刊、古活字覆刻整版本。連歌語彙を天象・時節・地儀などの二十部に分類配列し、語によっては出典や用法を説いている。

遺傳集　横本写、列帖装一帖

近世初期成立の連歌作法書「いろは新式」の一本。『無言抄』系だが、記事はより簡潔。巴（紹巴）、仍（玄仍）、玉（玉玄ヵ未詳）の説を多く引く。

ににんびくに　中本二巻合一冊

右は上巻内題。下巻内題「二人びくに」。子持の原題簽に「二人ひくに」。江戸版。「宝永七寅正月吉祥日　通油町／井筒屋三右衛門板」の刊記がある。「山谷重箱」「骨董舎」「骨董古雑籍珍重舗咸亨堂」「永田文庫」「残花書屋」「賓南」「アカキ」等の蔵印。帙裏に「昭和十四年九月三日浅くらにて求む　はまを」と墨書。

一休諸国物語　大本五冊

仮名草子。内容は先行の諸書から話しを適当に抜出して、主人公を一休に置変えたもの。本書は巻一・二、巻三・四、巻五の三種の取合せ本。巻五は初版本で「寛文十二壬子暦如月上旬　寺町二条上ル町　表紙屋庄兵衛板」の刊記を持つ。従来、刊記を大幅に削った後刷本しか知られていなかった。

[illegible]　草双紙合巻　六種一九冊

『妖狐天網島』（三巻、天保三刊）、『戯場稿本當現建』（二巻、天保三）、『両顔忍夜桜』（四巻、天保四）、『苅萱桑門筑紫の写絵』（三巻、天保二）、『花兄魁綴紙』（三巻、天保六）、『當世推故傳』（二巻、弘化五）、『俳優楽屋雑談』（二巻、天保十一）

骨皮道人滑稽著作　二十一冊

痩々亭骨皮道人著のボール表紙本。表紙一八・五×一二・三糎。書名は「滑稽独演説」「滑稽国夢物語」「滑稽狂進怪」「滑稽一口演説」など。表紙絵あり。明治二十より二十三年刊。価格金二十銭より五十銭。貸本屋のラベル（「第十六号、壹週間金一銭」）あり。骨皮道人は本名、西森武城（文久元―大正二年）東京生。世相、風俗に取材する滑稽文学作家。

彙報

委員会日誌

平成2年
11月16日　国際日本文学研究集会委員会（第三回）
12月10日　共同研究委員会（第二回）
12月25日　国際日本文学研究集会委員会（第四回）
平成3年
2月7日　国文学文献資料収集計画委員会（第二回）
2月8日　大学院教育協力委員会（第一回）
2月8日　共同研究委員会（第三回）
2月19日　情報処理システム運用委員会（第一回）
2月25日　古典籍総合目録委員会（第一回）

評議員会の開催について

本年度第二回評議員会が平成二年十月二十六日（金）に開催され、議事は、国文学研究資料館長候補者の選考について評議が行われた。

本年度第三回評議員会が平成三年三月二十二日（金）に開催され、議事は、申合せの制定並びに管理運営の概況並びに平成三年度予算内示及び科学研究費補助金並びに平成三年度事業計画について評議が行われた。

運営協議員会の開催について

本年度第三回運営協議員会が平成二年十月四日（木）に開催され、議事は、国文学研究資料館長推薦候補者の選定及び教官人事について協議が行われた。

本年度第四回運営協議員会が平成三年二月二十日（水）に開催され、議事は、教官人事並びに申合せの一部改正並びに管理運営の概況並びに平成三年度予算内示及び科学研究費補助金並びに平成三年度事業計画について協議が行われた。

外国出張

小山　弘志
岡　雅彦
新藤　協三
小峯　和明
樹下　文隆
渡航先　フランス、アイルランド
目的　在仏国文学文献資料の所在に関する調査
期間　平成3年3月1日～平成3年3月10日

松方　純
渡航先　アメリカ合衆国
目的　情報検索システム及びネットワークシステムに関する調査
期間　平成3年3月4日～平成3年3月10日

安永　尚志
渡航先　アメリカ合衆国
目的　コンピュータ人文科学（ACH）・文学言語（ALLC）合同国際会議出席及びTEI（テキスト符号化イニシアティブ）調査研究
期間　平成3年3月15日～平成3年3月25日

北村　啓子
渡航先　アメリカ合衆国
目的　コンピュータ人文科学（ACH）・文学言語（ALLC）合同国際会議での論文発表並びに人文科学への応用についての技術交流
期間　平成3年3月15日～平成3年3月28日

海外研修旅行

丑木　幸男
大藤　修
渡航先　中華人民共和国
目的　史料管理及びアーキビスト養成の研究（丑木）
文書館制度とアーキビスト養成制度の調査・研究（大藤）
期間　平成2年10月25日～平成2年11月1日

人事異動

（平成2年10月～平成3年2月）
（併任）平成2年10月1日～平成3年3月31日
文部教官（文献資料部助教授）
寺島恒世（山形大学助教授）
文部教官（研究情報部助教授）
中村康夫（鳥取大学医療技術短期大学部助教授）

利用者へのお知らせ

◆水府明徳会彰考館資料のサービス区分変更について

これまで水府明徳会彰考館のマイクロ資料の複写サービスのランク（サービス区分）は、「B」（紙焼写真、電子複写可）でしたが、このたび水府明徳会（徳川斉正会長）のご意向により、「E」（複写不可、閲覧のみ）に変更になりました。

今後、水府明徳会彰考館資料の複写を希望される方は、直接、彰考館へお申し込み下さい。

水府明徳会彰考館
〔住所〕〒310水戸市見川一ノ一二一五ノ一
〔電話〕〇二九二―四一―二七二一

◆参考開架図書と紙焼写真本の入れ換えについて

このたび三階参考閲覧室の参考開架図書と二階閲覧室の紙焼写真本とを、ほぼ全面的に入れ換えを行いました。

昨年の参考開架閲覧室の改装に伴い、利用者の皆様から、利用の多い参考開架図書が使いにくい、との声がありましたので、検討の結果、このように入れ換えを行うことにいたしました。

◆「国文学研究資料館報告」第12号の刊行について

当館では、当館の業務報告として「国文学研究資料館報告」をこれまで11号（昭和58年刊）まで刊行してまいりましたが、このたび「古典籍総合目録――データベースの構築と出版」と題して第12号を刊行することになりました。

同報告は、昭和五十五年度から始まった古典籍総合目録作成事業について、『古典籍総合目録』（平成2年、岩波書店）刊行を機に、その業務ならびに古典籍総合目録データベースの概要をご報告するものです。

なお、古典籍総合目録作成事業は、現在も作業中であり、今後も継続して行われます。

◆所蔵目録刊行のご案内

このたび『マイクロ資料目録』『逐次刊行物目録』の最新版が刊行されましたのでご案内します。

(1)『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九〇年』（第14冊）

この目録には、二四所蔵者（文庫）分、七、四九〇点が収録されています。そのうち七所蔵者（文庫）が、今回新たに収録されるものです。

収録所蔵者（文庫）は、次のとおりです（＊印は新規収録分）。

文庫No	所蔵者
30	刈谷市立刈谷図書館（村上文庫）
33	東洋文庫
48	名古屋市蓬左文庫
55	陽明文庫
89	名古屋市鶴舞中央図書館
92	上田市立図書館（花月文庫）
244	大阪女子大学附属図書館
257	大和文華館
260	東京都立中央図書館（東京誌料）
271	多和文庫
273	松宇文庫
274	金沢市立図書館（稼堂文庫）
275	金城学院大学図書館
278	大須文庫
281	＊盛岡市中央公民館
282	＊武生市
283	＊立命館大学図書館（西園寺文庫）
289	＊熊本大学国文学研究室
290	＊国立中央図書館（台北市）
296	尊経閣文庫
オ7	大方保
オ8	＊温泉寺
ヒ3	＊広瀬神社

(2)『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録一九九一年』

収録誌数は、前年分より六四誌増え、三、四五七タイトルで、昨年十二月末までの受入れ分が収録されています。

◆マイクロ資料目録の市販について

『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九八九年（縮刷版）』（第13冊）が笠間書院より刊行され市販されています（定価八、二四〇円）。なお今回は、昨年刊行された『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録書名索引一九七六年―一九八八年』が巻末に付されています。既刊十二冊とあわせて御利用ください。

平成三年度春季学会開催一覧

①事務局　②学会開催日　③会場（記載のないものは未定、または春の学会なし）

解釈学会　①〒101 千代田区神田神保町２-46教育出版センター内03-3239-5438

歌舞伎学会　①〒160 新宿区西早稲田１-６-１ 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内2465　②５月26日　③ラフォーレ原宿

訓点語学会　①〒192-03 八王子市東中野742-１ 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789　②５月24日　③甲南女子大学

芸能史研究会　①〒606 京都市左京区浄土寺真如町77紫雲荘６ 075-761-8718　②６月９日　③京都大学芝蘭会館

計量国語学会　①〒167 杉並区善福寺２丁目 東京女子大学３号館111号室03-3395-1211内305

国語学会　①〒113 文京区本郷７-３-１ 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111　②５月25、26日　③甲南女子大学

昭和文学会　①〒101 千代田区猿楽町２-２-５ 笠間書院内03-3295-1331　②６月８日　③大正大学

説話文学会　①〒154 世田谷区太子堂１-７昭和女子大学文学部日本文学科松田研究室内03-3411-5111内310　②６月22、23日　③昭和女子大学

全国大学国語国文学会　①〒101 千代田区猿楽町１-３-１ 桜楓社気付03-3295-8774　②６月８、９日　③中央大学駿河台記念館

中古文学会　①〒169 新宿区西早稲田１-６-１ 早稲田大学教育学部中野幸一研究室内03-3203-4141　②５月25、26日　③二松学舎大学

中世文学会　①〒113 文京区本郷７-３-１ 東京大学文学部国文学研究室内03-3812-2111　②５月24、25、26日　③白百合女子大学

日本演劇学会　①〒169 新宿区西早稲田１-６-１ 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内5214　②６月１日　③日本大学

日本音声学会　①〒110 台東区東上野３-25-６ 蒼洋社ビル５F 03-3839-3957

日本歌謡学会　①〒630 奈良市高畑町 奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153　②10月13、14日　③大東文化大学

日本近世文学会　①〒184 小金井市貫井北町４-１-１ 東京学芸大学国語教育学科古典第６研究室内0423-25-2111内2311　②６月29、30日　③青山学院大学

日本近代文学会　①〒150 渋谷区東４-10-28 国学院大学文学部日本文学第８研究室内03-3409-0111内538　②５月25、26日　③専修大学神田校舎

日本口承文芸学会　①〒114 北区西ケ原４-51-21 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所川田研究室気付03-3917-6111内384　②３月16日　③中央大学駿河台記念館

日本語教育学会　①〒107 港区赤坂１-８-10 第９興和ビル内03-3584-4872

日本児童文学会　①〒182 調布市緑ケ丘１-25 白百合女子大学児童文化研究室気付03-3326-6910

日本社会文学会　①〒102 千代田区富士見２-17-１ 法政大学文学部西田勝研究室内03-3264-9751　②５月25、26、27日　③新潟厚生年金会館他

日本文学協会　①〒170 豊島区南大塚２-17-10 03-3941-2740　②６月30日　③大東文化大学

日本文学風土学会　①〒214 川崎市多摩区東三田２-１-１ 専修大学文学部国文学科内044-911-7131　②６月15日　③専修大学

日本文芸研究会　①〒980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国語学国文学研究室内022-222-1800内2503　②６月８、９日　③東北大学

日本文体論学会　①〒110 台東区下谷１-５-34 三修社内03-3842-1711　②６月21、22日　③早稲田大学

日本方言研究会　①〒115 北区西ケ丘３-９-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111

俳文学会　①〒663 西宮市池開町６-46 武庫川女子大学文学部島津忠夫研究室内0798-47-1212

万葉学会　①〒558 大阪市住吉区杉本３-３-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413・2414

紫式部学会　①〒230 横浜市鶴見区鶴見２-１-３ 鶴見大学文学部日本文学科研究室内045-581-1001内242

和歌文学会　①〒102 千代田区三番町６ 二松学舎大学国文学研究室内03-3261-7406

和漢比較文学会　①〒228 相模原市文京２-１-１ 相模女子大学国文科矢作研究室内0427-42-1411

国文学研究資料館報　第三十六号
平成三年三月発行
編集・発行者　国文学研究資料館
東京都品川区豊町一-一六-一〇
郵便番号一四二
電話(三七八五)七一三一（代）
印刷所　株式会社　三興